

山川東部保育園における自己評価 (平成30年度)

評価項目		総 評 (意 見 ・ 改 善 策)
保育計画に関する評価	保 育 目 標	・保育目標の設定については、子どもたちの年齢や発達状況、興味関心を踏まえた実態に沿った目標を設定している。また、計画・実践・評価・改善を行って、更なる充実を目指した設定になるように努めている。 ・保育目標の評価については、職員会議等で達成状況の確認や検討を重ねて、次年度に繋がるよりよい改善案を提案できるように努めている。 ・子ども一人ひとりの保育目標達成については、保育の過程と育ちの様子が捉えられるように、0歳児から5歳児までのそれぞれの過程で、発達を捉える視点を設定して、職員が育ちを系統的に捉えるように工夫している。
	保 育	・未満児は、出来るだけ散歩や外遊びを多く取り入れ、体力向上を目指した。 ・以上児は、保育指針に基づいて遊びや運動を取り入れた活動をした。また、年中児と年長児では、体力向上や遊びのルール、規律の大切が、身につくように体育あそびを行っている。 ・年長児は、目標に向かって最後まで粘り強く努力することの大切さを学ぶ活動(ダンス、鼓笛)を取り入れた。 ・アクシデント報告も毎日報告し、毎月の集計と検証を行う。また、危険箇所については、点検と改善を行い安全安心な環境づくりに努めている。
	行 事	・毎月の誕生会では、子どもたち全員で、クイズや楽しいダンス、劇などをして、子どもたち同士の楽しい顔見知りの場になっている。 ・敬老の日にちなんだ、祖父母会を催し子どもたちの感謝の気持ちを込めた歌や踊りのプレゼント、共同作業、宝探しを行った。 ・勤労感謝の日にちなんだ、市役所、農協、警察、郵便局に子どもたちの手作り「リース」を贈った。好評で今後も取り入れていきたい。 ・地域行事「敬老祭」「平家祭」のステージ参加や高齢者施設の慰問を行った。
保育計画を支える諸条件に関する評価	体制・分掌	・職員の担当年齢クラスや職務内容毎に、リーダー等の役割を明確にしたことで、保育の充実や協働できる意識や体制が確立してきた。 ・早番及び延長保育時間帯を2名で担当する様にしているので、保護者対応や連絡調整が確保できている。また、その時間帯での園児の安全を守ることもできている。 △分掌については、各クラスの負担軽減を考慮した取り組取り組みを行い、更なる保育の充実と協働できる体制づくりに努める。
	運 営	・職員会議では、園長が中心に提案内容や時間配分を事前に検討する。司会は主任保育士が担当し、記録を毎月輪番制している。また、各種会議・給食会議・ケース会議も職員会議に含め効率的に実施し、その都度全職員が記録内容を閲覧し周知に努めている。
	年 齢 別・クラス運営	・異年齢の交流や訪問を活発に行い、園児同士の関わりができているので、今後も引き続き連携を深める。また、職員間の連携にも繋がっている。 △新任教育として、連絡ノートや保育記録のエピソード記述は、クラス担当者や主任保育士が指導しながら今後も研鑽を深めていく。 △年齢による子どもたちの特長を捉え、その各々の特長を生かしたクラス運営ができるよう保育士同士の確認を行っている。
	保 健 安全 指 導	・保育士・栄養士等全ての保育者が、それぞれの専門性を発揮しながら、子どもたちに分かりやすい言葉で健康・安全の指導を行っている。 ・感染症発生時には、保護者に対して連絡帳や園メールで、迅速に情報提供し、拡大防止に努めている。また、知り得た県・市の健康に関する情報も速やかに提供している。 ・職員においては、職朝等で各クラスの情報を共有している。
	園内外研修	・職員会議(園内研修)では、事例にもとづく課題解決の方法が紹介されたり、園外研修会(保育士等キャリアアップ研修分野別)の内容が紹介されたりすることから、職員の意識改善や自己啓発に繋がっている。 △園外研修会(専門分野)への参加と、その園内研修での報告を継続することから、職員相互の保育内容を振り返る良い機会になり、職員の資質向上に繋がっている。
	情 報	・クラス担当や栄養士に係わりある各書類等が、適切に保管・処理・管理されている。また、園長による点検及び調整を行い、園長が管理する。 ・園専用 PC を4台に増設し、各帳簿の整理等の効率化を図っている。このことは、職員の負担軽減になっている。また、個人情報漏えい防止のため、PCの使用は園内で行うようにしている。
	施設・整備	・園生活を更に安全で快適にするために、ウッドデッキの角カバー及びローレルテントの設置をした。また、エコロックの設置も予定している。 ・本園舎を土砂災害特別警戒区域指定に伴い、平成30年1月4日に、旧山川東部小学校跡地(わんぱく広場)に移転した。・新園舎(敷地面積 3,613 m²、延面積 975.68 m²) ・旧園舎(解体完了日：平成30年1月31日)

	評価項目	総 評（意見・改善策）
保育計画を支える諸条件に関する評価	家庭・地域との連携	・高齢者施設(あぐりの郷8月、やまびこ9月)の慰問を行い、歌やダンスを披露したり、肩たたきなどしたりして交流を深めた。高齢者の方は、園児の可愛い仕草に感動されていた。 ・地域行事(敬老祭9月、平家祭3月)のステージにおいて、年長児、年中児の普段から培っているダンスを披露し、多くの人たちに歓びと感動を得ていた。また、その時の園児の送迎は、保護者の協力で行った。 △移転後間もないので、年間行事計画を地域に配布して、理解と協力を得られるように努めたい。また、地域の施設を活用した散歩を行い「もの、こと、ひと」との交流を深め、地域との関わりを広げていきたい。
	子育て支援の推進	・平成27年度から、一時預かり保育事業を開始している。親元で出産する機会に、子どもを一時的に預かる傾向が高くなっている。 ・いろいろな園行事への参加を呼びかけて、ふれあいの機会から子育ての支援を推進する。 ・保護者の子育てに関する相談に応じ、不安を和らげるように努めている。
	情報発信	・ホームページの更新や内容の見直しを行いながら、園だより、クラスだより、給食だよりなどを毎月配布し、園の理念・方針・目標を周知し、共有している。 ・緊急事態に対応するための園メールが効果を上げている。 ・保護者には、送迎時の連絡や連絡帳を通して、園児の園での様子を伝えるように努めている。
給食に関する評価	衛生管理	・毎週(土曜日)に、給食室を中心にオゾン消毒散布を行っている。 ・衛生管理点検は、毎日の衛生チェックに努めている。特に、水道水(貯水)の塩素濃度は、毎日2回実施している。 ・調理室、ランチルームでは、嘔吐物等からの感染が無いように、テーブル、椅子、床の清掃を重視し、適切に衛生管理を行っている。
	調理内容	・献立の内容や食の安全性を考慮して調理に当たっている。園児への給食は、適温での提供を心掛けている。 ・アレルギー除去食は、医療機関の食物アレルギー指示を基に、保護者やクラス担任との密な連携を取りながら調理している。 ・その日の献立給食を玄関に展示し、お迎え時の親子の会話に繋がっている。
	食育	・以上児クラスは、ランチルームでの合同給食で、楽しい給食を行っている。 ・菜園活動で収穫した新鮮な野菜(ブチトマト、キュウリ等)を給食のデザートに利用している。(今回は、収穫量が少なかった。) ・郷土料理(特産物)、伝統的な食を味わう献立を取り入れている。 ・以上児クラスでは、年に数回、クッキングを実施し、旬の食材を知る機会をつくり、食への関心を引き出す活動を行った。また、このことから、調理の楽しさ、作ってもらうことへの感謝の気持ちも育てたい。
健康に関する評価	健康管理	・必要に応じて、園メールや園だより、クラスだよりで、発症しやすい病気について、予防啓発・状況報告を行っている。 ・子どもの健康管理については、全職員が全クラス・全園児の健康状態の情報及び対応を、共有することから、感染症やアレルギーなどの適切な対応に努めている。 ・特に、アレルギー除去食については、医師、保護者、栄養士、担任との連携を密に行っている。 ・感染症が発生した際、クラスの発生状況を、全職員が職朝で確認し、園メールで全保護者に周知している。 ・各クラスでの嘔吐物などの処理は、身近にいる保育士が、速やかに園児を遠ざけ、次亜塩素酸等を使って適切に処理している。
	事務管理	・事務処理を迅速に且つ適切に処理することで、職員の職務遂行の効率化に繋がるように努めている。 ・毎月の職員への給料、業者への支払等の業務は、IT化により効率的に処理している。 ・新園舎建設に関わる事務処理については、定款変更申請及び登記は適切に遂行された。
建設の評価	新園舎建設に向けての運営	△園児は、広々とした園舎・園庭でのびのびとした気持ちで生活している。特に、室内(教室、廊下)での生活「静かにする」「歩く」等の基本的な生活習慣は、まだ十分に身につけていない。 △しかし、園児の声が大きいのは仕方ないとして、園舎の構造に問題があるように思われる。それは、鉄骨建築で、壁や天井に防音設備や構造が施されていない。建設の際、重要なことを怠っていた。